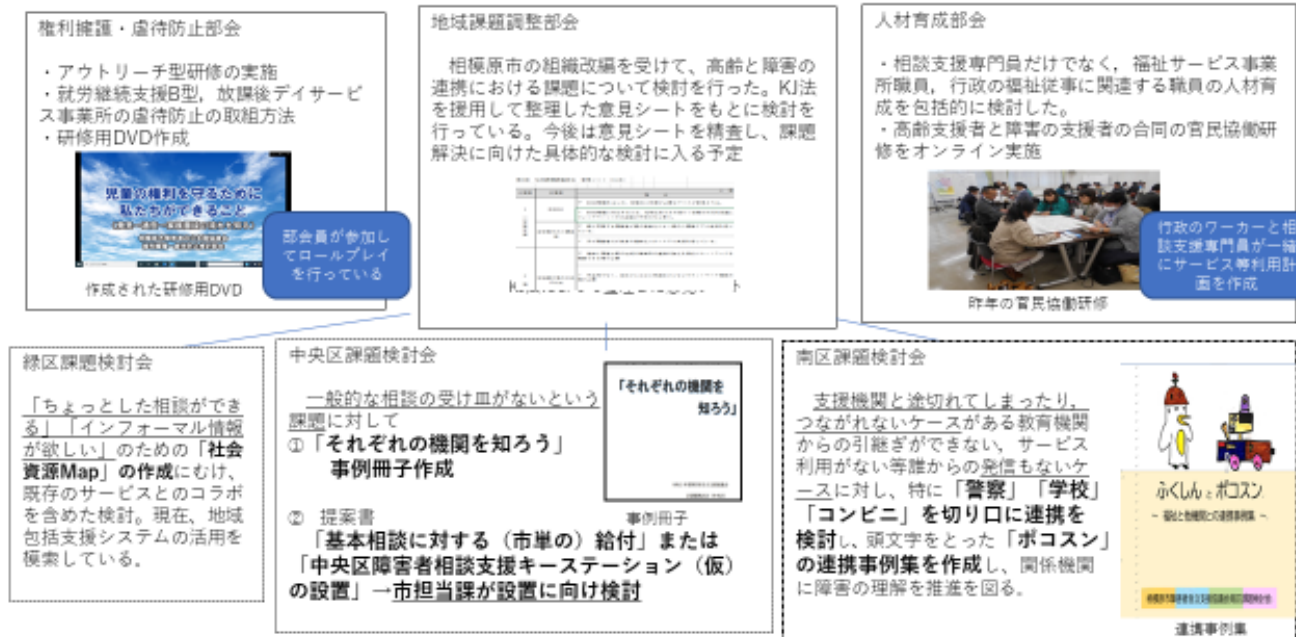


～令和3年度 さらなる高みへ～

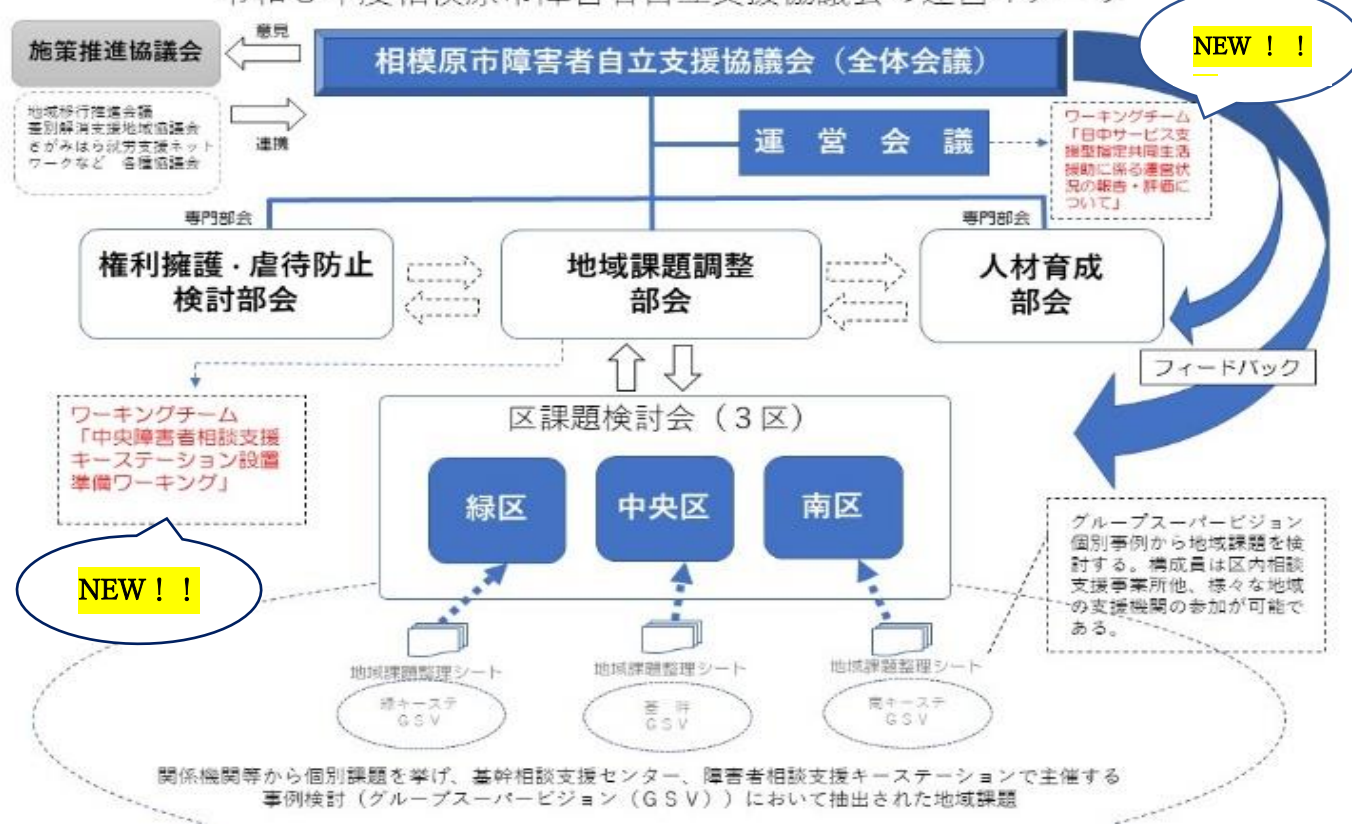
地域の支援者の課題意識が協議会で共有されることにより、更に大きな活動へと展開していき、下記のような成果物へとつながりました。今回の誌面は、各部会長・副部会長の紹介、ならびに部会活動紹介、協議会後援研修の報告です。

令和2年度 相模原市障害者自立支援協議会 議論の論点抜粋版



令和2年度主任相談支援専門員養成研修「基幹相談支援センターにおける地域連携」資料より

令和3年度相模原市障害者自立支援協議会の運営イメージ



各部会長・副部会長よりごあいさつ

権利擁護・虐待防止検討部会

【令和3年7月6日・9月7日・11月8日 Web 会議/12月1日対面会議】

部会長という責任のある職に就くことになりました、相模原市高齢・障害者福祉課の羽場と申します。行政の立場から、部会長になることに違和感はあったものの、虐待防止委員会の設置が令和4年度から義務化されるなど転換期であることから、事業所をはじめとした関係者の皆様への円滑な情報提供と、様々な会議、既存の仕組みがある中で、有機的な連携ができればと思い、この度、部会長を引き受けることといたしました。

私は現在、権利擁護の担当として、成年後見制度の利用促進や、高齢者及び障害者の虐待防止対策に取り組んでおります。直近では、教育と福祉の連携を図るため、2年間ではありますが、教育委員会に在籍し、就学支援、不登校支援に携わっておりました。その前には、児童相談所において児童虐待対応に当たり、そのほか、精神保健福祉行政、生活保護行政にも携わってまいりました。これまでの経験を生かし、また、皆様のお力添えを頂戴しながら、本部会を進めてまいりたいと思っております。

活動内容につきましては、おそらく副部会長からご説明いただけたと思いますので省略いたしますが、本部会の活動を、市が開催している「高齢・障害者虐待防止ネットワーク協議会(高齢者及び障害者の虐待防止及び早期発見を進めるとともに、より迅速かつ的確な対応等を図るため、関係機関等と情報交換を行う場)」に報告したいと考えております。冒頭でも触れましたように、様々な会議や既存の仕組みがありますので、それぞれをつなぐ潤滑油となれればと思っております。

以上、略儀ながら、書中にてご挨拶申し上げます。

権利擁護・虐待防止検討部会部会長 羽場 建護

「福祉のしごと」とは？このように真面目に聞かれると、はて？なんて答えるのが正解だろう？と考えてしまいませんか。神奈川県障害者自立支援協議会会長である和泉短期大学鈴木敏彦教授は、福祉職としての使命は「権利を守ることであり、日々みんなの言葉に耳を傾け、意思決定を支援していくことである」とよくお話されています。実際に直接支援を提供しているときにこのことを意識することはとても難しいことでもあります。直接支援の現場にこそ、この重要な視点が存在します。「権利擁護・虐待防止検討部会」では、この難しい課題を乗り越える為に①グループホーム職員への研修②児童分野への早期発見・早期対応、について取り組んでまいりました。コロナ禍で難しい局面ではありますが、私たち支援者が障害児者の「権利擁護の担い手・守り手」であることを強調し、今までの成果物を多くの支援者に届ける為に前向きな取り組みを意識してまいります。

権利擁護・虐待防止検討部会副部会長 西村 三郎



人材育成部会

【令和3年7月5日 Web 会議/11月29日対面会議】

障害福祉の分野においては、県内施設で虐待の事実が明らかになったり、新型コロナとの共存の中でサービス提供の見直しが迫られたりと慌ただしい 2021 年度になっています。人材育成部会としても新しい年度に移行し、次世代を担う福祉従事者の育成の必要性を日々痛感しています。

昨年度の部会活動としては、地域包括ケアシステムへの体制構築が求められる現状を踏まえ、高齢福祉分野との連携の中での新しい学ぶべき視点を明らかにしてきました。今後は、福祉分野における人材不足が深刻な現状を改善していくために、新しい視点を踏まえた福祉実践に関わる中で学ぶ内容を明らかにしていきたいと考えています。特に、今までの協議会の取り組みをふまえ相談支援の取り組みから福祉実践の再評価する視点を大切にしつつ、実践の中で従事者が学ぶ内容が個々の働きがいとどの様に結び付けていくのか、その筋道を見いだす手伝いをできればと考えています。今年度も、よろしくお願いします。

人材育成部会部会長 海老沢 祐次

今年度、自立支援協議会・人材育成部会の副会長を務めますライム・ライトさつき相談センターの江嶋です。

昨年度、部会の研修はコロナ禍のため、対面で行うことが出来ずオンライン研修の開催となりました。試行錯誤の連続でしたが、相模原市の組織再編にともない、高齢と障害が統合されたのを受け、「8050 問題」の事例を用いて、ZOOM のブレイクアウトルームを活用しながら、多職種間(相談支援、高齢者支援センター、行政等)で議論を深めることができました。

前身の相談支援技術向上部会では相談支援に特化した研修を企画してきましたが、人材育成部会では、福祉職に就いてる全職員向けに「福祉の仕事の魅力」を再発見してもらええる企画を考え、今ある貴重な人材を繋ぎとめ、各人がブラッシュアップできる仕掛けを本部会では目指していきますので、よろしくお願いします

人材育成部会副部会長 江嶋 直樹

地域課題調整部会

【令和3年7月28日・8月31日・11月16日 Web 会議】

3区の課題検討会であげられた地域課題を共有し、地域の実情に応じた体制の整備について検討を続けています。令和3年度は、令和2年度までの取り組みを更に進め、地域共生社会への足がかりとなる「相談支援体制の充実」、「高齢者支援・障害者支援の連携協働」について協議しています。緑区で取り組まれている地域包括ケア支援システムを活用したデータベースの構築、中央区の報告書にまとめられた一般的な相談の担い手がない、という現状の改善、南区で作成された地域連携事例集の活用という各区の検討課題、そして、当部会で意見シートとしてまとめられた高齢者支援・障害者支援の連携における課題について、解決に向けた協議を進めているところです。

地域課題調整部会部会長 堀越 恵美子

緑区課題検討会

【令和3年5月24日・6月8日・9月2日・11月12日 Web 会議】

緑区課題検討会では、日々の相談の中から抽出された地域の課題の中で、「ちょっとした相談ができる」をキーワードに、福祉制度に限らない様々な社会資源を活用して、より安心して豊かな地域生活を実現維持できるように、社会資源の情報を地図化することを進めてきました。

具体的には、既存のかながわ福祉サービス振興会ホームページの「地域包括ケアシステム」を利用し、そこにインフォーマルな資源・情報も併せて掲載し、より使いやすいマップにしてい取り組みを始めました。それと同時に、さらにこのシステムを利用し福祉サービス・社会資源を包括的に継続活用できるように、相模原市への提案書も準備し、次回の自立支援協議会には提出できればと考えています。

また、今年度に入り、すでに検討会 3 回、ワーキングを 5 回開催していますが、今後はそのシステムをどう運用し使いやすいものにしていくか等の検討ができればと考えています。

緑区課題検討会部会長 中谷 正代

昨年度に引き続き、ささいな心配事も含めた「ちょっとした相談」という地域課題について議論を重ね、地域包括ケア支援システムの活用に焦点を絞り検討を行ってきました。システム活用の第 1 歩として障害福祉サービスかながわに掲載されている、障害福祉サービスの情報を地域包括ケア支援システムに掲載を行いました。現在は緑区課題検討会の各委員からインフォーマルな情報を集約し、地域包括ケア支援システムへの掲載を進めています。

地域包括ケア支援システムは相模原市が契約を結び負担金を支出して情報を掲載しています。今後も継続して相模原市で運用して頂けるよう、システムの有効性や普及活動などをまとめた提案書を作成しています。相模原全域に地域包括ケア支援システムを普及させ、当事者の望む地域生活の維持・実現に繋げていきたいと思ひます。

緑区課題検討会副部会長 山口 啓太

社会資源提供への取り組み依頼シート

2021 年 6 月発行

社会資源情報提供のお願い

相模原市障害者自立支援協議会 区域課題検討会(緑地区)

【目的】


障害のある方が安心して活用できる資源として、衣食住や生活に関する事、ボウディア情報、集いの場など、地域の情報を公開することで、地域での生活をサポートすることを目的としています。

【ご提供いただける情報】

食事、買い物、娯楽・美容、移動資源、医療機関、ボウディア活動、集いの場など、障害のある方が安心して利用できる社会資源に関する情報

【情報の掲載場所】

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会ホームページ上
地域包括ケア支援システム (<https://www.kanafuku.jp/>)



＜お問い合わせ先＞

内容の更新や変更、掲載の停止等ございましたら下記へご連絡下さい。

所属	連絡先	名前

社会資源情報提供用紙

日頃より、障害のある方が地域で安心して生活が送れるよう、様々な取り組みを実施していただきありがとうございます。

「相模原市障害者自立支援協議会 区域課題検討会(緑地区)」では、様々な社会資源を活用し、障害のある方の地域生活を支援していくよう社会資源 MAP の作成に取り組み中です。

つきましては、社会資源 MAP に下記に記載いただいた情報を掲載しなく、ご協力をお願いいたします。

情報内容

年 月 日 発行

・名称(事業所名・団体名等)

〒

・掲載場所(住所)

〒

・連絡先(電話番号・メールアドレス等) 連絡先について ☐ 掲載する ☐ 掲載しない

・情報に関するコメント等
(開催日時・費用・活動内容・対応エリア・リンク先 URL・掲載依頼等)

※掲載にあたり、対象となる方等実際に利用する際のアドバイスや注意点がございましたら、

※MAP への掲載とするための掲載場所(住所)は必須とさせていただきますが、連絡先についてはご相談ください。連絡先について「掲載しない」にチェックがある場合は、掲載場所(住所)のみの掲載とさせていただきます。

※掲載した情報について、内容の更新や変更、掲載の停止等のご希望がございましたら、

【社会資源情報提供のお願い】に記載の問い合わせ先までご連絡ください。

※表裏に記入用がございます。

中央区課題検討会

【令和3年7月12日・8月23日・11月4日 Web 会議】

前回に引き続き、中央区の課題検討会の部会長を務めさせていただく事になりました。中央区の構成メンバーは障害福祉サービスの職員だけでなく、高齢者支援センターや母子生活支援施設、社会福祉協議会や行政の職員等、多様なメンバー構成となっていますので、様々な視点での「きづき」を大切に、議論を積み重ねていきたいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大への心配も強まり、オンラインでの会議実施も予想されますが、オンラインであっても活発な意見交換を通して、地域課題への理解を深めると共に、自分の視野も広めていきたいと思います。

中央区課題検討会部会長 守屋 久

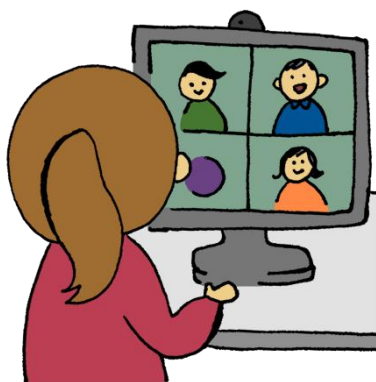
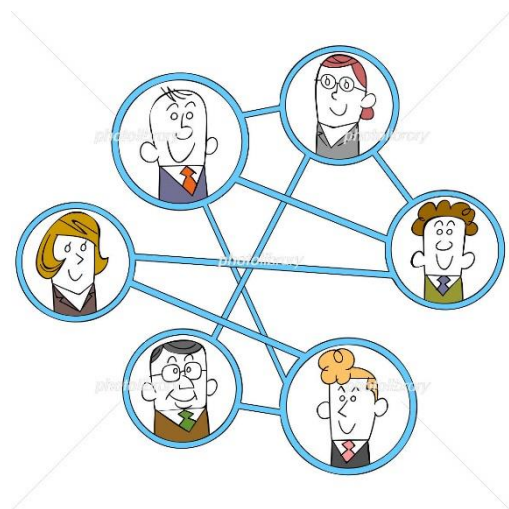
中央区課題検討会では、令和元年度から令和2年度にかけて、「繋がりにくい相談」をテーマに取り組んでまいりました。「繋がりにくい相談」にはこういった要因があるのか、また、そういった相談に対して中央区課題検討会の機関が現状どう取り組んでいるのか、得意不得意やできることできないことは何かなどを「それぞれの機関を知ろう」という冊子を作成し整理をしました。それぞれの機関を改めて理解することで、繋がりにくいとされていた相談の中に課題解決の糸口が見えるものもありました。一方で、「一般的な相談」の受け皿が不足しているという課題も見られ、それについては「活動報告及び提案書」としてまとめました。

令和3年度はすでに2回、オンラインで会議を行い、新たな地域課題として「(支援者が)困りごとを相談、共有できる機会や場の設定」に取り組むことが決まりました。具体的な方法はこれから検討していきますが、メンバーからはすでに、「事例検討」、「ニーズ調査」、「掲示板」、「協議会他部会との連携」など様々なアイデアが出されています。

この地域課題は、支援者が困った時に相談や事例検討ができる場を地域の中にどう作っていくかと考えることもできますが、視点を変えると、支援者自身の「相談するスキル」や「検討の場を設定するスキル」をどう向上させていくかということも考えていくことができると思います。今後の取り組みがこういった方向性になっていくのか私自身とても楽しい気持ちでおります。

中央区課題検討会副部会長 赤石澤 勝





南区課題検討会

【令和3年7月2日・8月27日・11月5日 Web 会議】

南区課題検討部会では、福祉と他機関の連携事例集「ふくしんとポコスン」を作成し、今後の活用法をめぐって市全体を巻き込んでいこうと目論んでいます。手始めに中央区課題検討部会にアンケートを実施し、さらには緑区にも同様の働きかけを予定するでしょう。もしこの通信を手にとった方で、「ふくしんとポコスン」についてご意見・ご感想があれば是非お寄せいただきたいと思います。

ちなみにポコスンとは、警察（ポリス）、コンビニ、教育（スクール）を合体させてできた造語であり、キャラクターです。はじめは「ポコスちゃん」と名付けたのですが、ダイバーシティの観点から「ちゃんづけはどうなの?」「でもポコスさんじゃお堅い感じ」というような意見交換をどっかんどっかん笑いながら議論しました。

そんな南区課題検討会の会議風土も様々な機関に伝染させられると良いかなあと副部会長として思っています。

南区課題検討会副部会長 鈴木 恒介

研修報告

令和3年度 相模原市基幹相談支援センター・福祉研修センター 支援技術向上研修(E1)

相模原市の地域課題について考えよう

基幹相談支援センター・障害者相談支援キーステーションによる
グループスーパービジョン（相模原モデル）と自立支援協議会の実践報告から

【日時】令和3年12月6日（月）
13:30～16:30
【方法】オンライン（ZOOM）により実施
【スーパーバイザー】筑波大学大学院 小澤温氏

基幹相談支援センター・障害者相談支援キーステーションによるグループスーパービジョン（相模原モデル）では、個別事例から見える地域課題を、皆様と共に考えてまいりました。前回の報告会から3年経過し、更なる課題に対して発展的な活動がなされています。本報告会では、地域課題における取り組み状況や自立支援協議会の活動を報告し、皆様と意見交換や情報共有するとともに、筑波大学大学院の小澤先生のスーパーバイズを頂きながら、より良い地域づくりや社会開発について一緒に考えていきたいと思います。地域でご活躍されている皆様のご参加をこのよりお待ちしております。

報告者	基幹相談支援センター・障害者相談支援キーステーション職員 相模原市障害者自立支援協議会委員
参加者	地域の支援関係者など
参加費	無料
申込み	裏面の申込書に必要事項を記入し、11月30日（火）までに下記 FAX 宛お申込みください

<申し込み先 FAX 相模原市基幹相談支援センター>

042-758-7070

去る12月6日（月）、基幹相談支援センター・福祉研修センター主催、協議会后援により『相模原市の地域課題について考えよう』と題し研修を開催いたしました。スーパーバイザーには、筑波大学大学院小澤温教授をお迎えし、基幹相談支援センター、緑・南障害者相談支援キーステーション実施のグループスーパービジョンから抽出された地域課題への取り組み報告と併せ、協議会における地域課題への取り組み報告の後、関係者との意見交換の時間を設けた研修形式で開催されました。小澤教授からは、「地域支援者からあげられた地域課題を協議会で検討できる体制が整えられている上、具体的に検討されている相模原市の取り組みは素晴らしい」とご講評を受けました。ご参加いただきました地域関係者の皆様、ご登壇いただきました皆様、ありがとうございました。

今後もこのような機会を通じて、協議会の活動を発信していきたいと思います。



筑波大学大学院 小澤温教授



【ハイブリッド型研修】
沢山の方々にご参加
いただきました。



部会長・副部会長の皆様です！
ご報告ありがとうございました。参加者の皆様からも「部会
の様子がよくわかった」「興味
深い報告でした」というお声が
届いています。



あとがき

各部会、昨年度までの活動を基盤に更に具体的な取り組みへとつながられています。委員皆様のご協力
に支えられ、障害者の権利や暮らしを守るために運営して参りますので、今後共、相模原市障害者自立支
援協議会へのご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

発行 相模原市障害者自立支援協議会事務局

〒252-0223 相模原市中央区松が丘 1-23-1 電話 042-758-2121